

1. 調査報告概要表

作成日 2008年6月16日

【評価実施概要】

事業所番号	” 0195000120
法人名	北見福祉事業サービス株式会社
事業所名	グループホームしあわせ館
所在地	北海道北見市東相内町143-32 (電話) 0157-36-2940

評価機関名	(有)NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成20年6月3日

【情報提供票より】20年 5月 8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 6 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	21人, 非常勤 0 人, 常勤換算 9.9 人

(2)建物概要

建物構造	木造 2 × 4 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	16,500~17,500円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	食費に含む

(4)利用者の概要(5 月 8 日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低	92 歳	最高	62 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	北星脳神経外科 ・ 為山堂医院 ・ 若原歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームしあわせ館は北見市中心部より東部に位置し、国道より少し入ったところで水田・畑に囲まれており、近くには幼稚園・小学校があります。建物内は、広々として明るく清潔で、陶板浴室もあり、また隣接したデイサービスほのぼの館にある託児室の子供との交流もあります。管理者・職員共に『自分の親・祖父母に接するように』をいつも心掛けて接しています。また週に何度か天気の良い日にはドライブにでかけ芝桜・チューリップ見学などを行い、お昼には皆でラーメンを食べたりソフトクリームを食べるなど楽しみ事としています。また、さくらんぼ・水菜・かぼちゃ・豆・トマトなど多くの種類の野菜を育て草取り・水やりなどを生きがいにしている利用者もいます。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回、初めての外部評価となります。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価を作成するにあたり評価の意義は十分理解しており、管理者・職員各自が評価したものをミーティングで話し合い、サービスの質の向上に向けて取り組み作成しています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、昨年12月に初めて開催され3月に2度目が開かれました。参加者は、家族代表・行政職員・町内会長・事業所職員で構成され、ホームの概念、活動状況の報告が行われています。これから、自己評価及び外部評価の結果を公表しながら課題解決への前向きな取り組みを検討しています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への報告として、行事等の写真を載せた便りを配布し、電話等で近況報告をしています。家族訪問時には本人の近況を伝え、金銭出納帳を明示しています。また、家族の意見・苦情など話しやすい雰囲気作りを心掛けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し総会にも出席しています。散歩時には挨拶を交わし、町内会の清掃にも積極的に参加しています。断水時には、心配し声を掛けてくれ地下水を提供して下さる地域の方もいます。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム内には、管理者・職員が人間らしく自然に生活出来る支援を表現した理念がホームの見易い場所に提示しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、理念を日常的に実践できるようミーティング等で話し合い、常に『自分の親・祖父母だったらどう接したいか?』を心掛け、常に笑顔で接するよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し総会に出席しています。断水時に地下水を提供して下さる地域住民の方もおり、また町内のゴミ拾いや清掃活動にも積極的に参加し、挨拶も交わし交流に努めています。今年度は町内行事に積極的に参加し、地域の方にもホームを利用して頂くなどし交流を深めていく予定になっています。	○	地域ぐるみのお付き合いなどを運営推進会議の中でご意見をいただきながら、町内会のイベント参加及びホームへの気軽な立ち寄りなど、更なる取り組みを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は十分理解しており、自己評価を職員全員で取り組んでいます。自己評価・外部評価の結果はミーティング等で報告し、改善に向けて検討し今後の業務に活かしていく予定となっています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2度開催があり、出席者のご理解も深まっておりますが、これまでのところホームの生活状況・行事の結果報告が主な内容となっています。会議の時に、利用者へ感謝状(家事を手伝ってくれる・畑を管理してくれるなど)を渡し感謝の気持ちを伝えることにより利用者のやる気を促進しています。議事録は作成されていません。	○	今後は、自己評価・外部評価の結果を公表し委員の助言を得ながら地域への連帯と理解を得よう望みます。今後、出席できなかった家族や行政・町内会長へ議事録の配布をする事で理解を得よう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点・改善点などがあれば、気軽に相談できサービスの質の向上に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時を積極的に利用し、利用者の身体状況、生活の様子の変化等について詳しく説明する他、ホーム便りや遠方の家族、また必要に応じ随時電話連絡しています。金銭出納帳の明示報告も行っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の見えやすい場所に苦情相談窓口の表示と重要事項説明書に記載しています。家族が気軽に意見・苦情等が話せるような雰囲気作りに努めています。意見等があった場合はミーティングで話し合い反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職があった場合は、利用者に聞かれたら離職理由(配偶者の転勤・育児など)を正直に告げ納得していただき、他の職員の見守りの中ダメージを防ぐよう努めています。また、新職員が職場や利用者へ早く馴染むよう他職員がフォローしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるようシフトの調整を行っています。研修に参加した場合は、ミーティング等で報告し業務に活かすよう努めています。	○	全ての職員が、外部研修のみならず内部研修の年間予定を決めての勉強会を行い更なる職員のスキルアップを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流を積極的に行っています。月に1回他グループホーム主催の勉強会に職員が出来るだけ参加し、サービスの質の向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に何度か自宅に出向き本人・家族と話し合い生活歴等を把握し、またホーム見学をしてもらい納得して利用出来るよう努めています。入院先から入居する場合は病院に何度も出向き利用していただく配慮をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者へ、野菜作りの知恵を教えたり、散歩時には、よもぎの葉を摘んで、よもぎだんごの作り方や山菜などのアクぬきを教えて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何度も自宅に出向き利用者の生活歴・個人史を把握し、また日々のかかわりの中での言葉や表情から利用者の意向や希望を把握するよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人・家族の思いや意向を反映させるよう担当者会議において職員間で話し合い介護計画の作成に努めています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングによる見直しや心身の状態変化を把握し、家族への報告と相談、職員間で話し合い随時介護計画の見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	車椅子での外出支援、通院支援など本人や家族の様々な状況や要望に対し、柔軟なサービスの提供がされています。また、医療機関との連携体制を活かした24時間受診可能な体制になっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関に受診できるよう支援されています。また診断内容、服薬等について情報の共有がなされています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、取り組んでいく事で管理者・職員間で意思統一が図られています。管理者は、関連する研修等にも参加しています。また、利用の際家族にはその旨を説明しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応、声掛け等を常日頃より心掛けています。		
21	52	○日々その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑仕事を日課とする、食後に紅茶をいただく、歌を楽しむなど一人ひとりの生活のペースを大切に、笑顔とゆったりとした声掛けを常に心掛けて接しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分達で育てた野菜を調理したり、後片付けを職員の見守りの中で行っています。天気の良い日は、外でジンギスカンや焼きそばを調理し食べるなど食事を楽しめる工夫がされています。また、ドライブの後に、ラーメンや回転寿司などの外食も利用者の楽しみになっています。	○	一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて最低週2回入浴を行っています。清潔保持のため入浴は欠かせませんが、入浴を拒否する利用者も多く無理強いせずシャワー浴や声掛け等を工夫し対応しています。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や食事の準備後片付けなど、日常生活の中で自分の出来ることを積極的に手伝い、自分の役割と考えている利用者もいます。みんなで童謡を歌ったり、ドライブに出掛けたり、花札・オセロ・かるたを楽しみ事としています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ多く外出できるように、天気が良い日にはドライブに出かけたり、買物、散歩など一人ひとりの希望に合った外出支援を行っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害について理解しています。日中は玄関等の施錠はせず、職員の見守り方法の徹底を図っています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て5月に初めて避難訓練を実施しました。災害対策についてのマニュアルは作成されています。	○	あらゆる場面を想定した訓練が必要だと思われます。早急に町内会または近隣住民の協力体制を築き、ホーム職員のみならず地域の人々と一緒に実践に即した訓練計画を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に馴染みのある料理を提供するよう心掛けており、食事形態・摂取方法も個人の状態に合わせて行われています。食事量・水分摂取量も毎日日誌に記録し、職員が情報を共有しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は広々とし日当たりも良く、清潔が保たれた空間で利用者は暮らしています。対面式キッチンから調理の音やご飯の炊ける匂いなどを身近に感じられます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、思い思いの家具や調度品が持ち込まれ、仏壇、テレビ、ソファー、カラオケなど家庭と変わらない利用者の居心地のよさに配慮しています。		